

保護者様

令和 6 年 1 1 月 1 日

京都市立大原野小学校

校 長 城ヶ崎 浩也

令和 6 年度

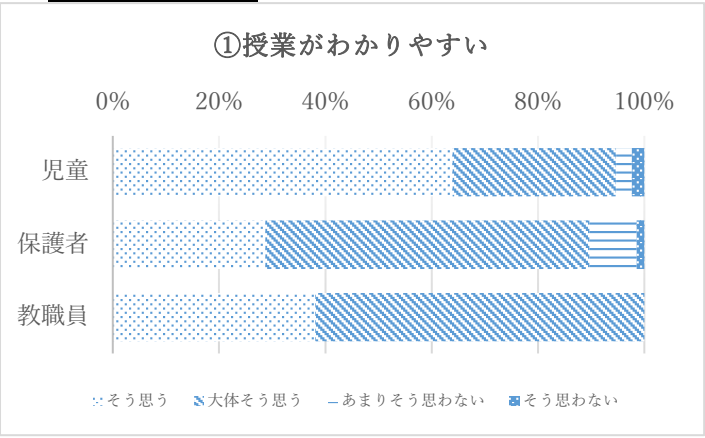
京都市立大原野小学校 第一回学校アンケート結果

第一回学校アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケート結果を分析・検討し、学校運営協議会にて皆様のご意見をいただきました。その結果をご報告いたします。今後も、より良い大原野の教育を目指してまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

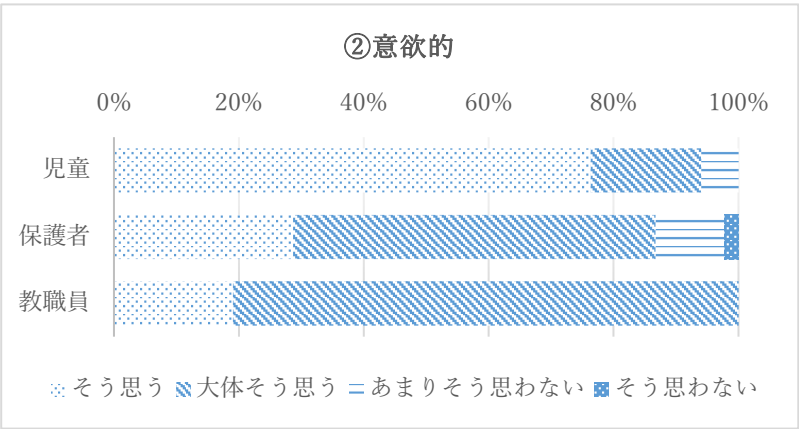
本校では、学校教育目標を「自ら学び、未来を創造する子の育成～自分らしい生き方を探究する児童～」とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を柱に、全ての教育活動を行っています。この3つの柱の観点から、児童12項目、保護者13項目、教職員15項目のアンケートのうち、いくつかを取り上げて考察しました。。

A…そう思う B…だいたいそう思う C…あまりそう思わない D…そう思わない

1. 確かな学力

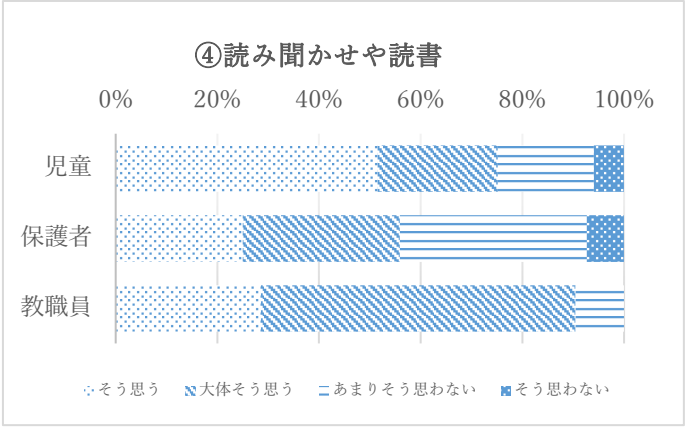


物を使った操作活動を多く取り入れたりするなど、学習形態の工夫をした成果だと考えています。さらに、1人に1台のGIGA端末を活用し、デジタルドリル「ミライシード」で朝の帯時間を中心に漢字や計算などの基礎基本の定着を図ったり、自身の思考をまとめたり相互の意見を交流し合ったりすることに「ロイロノート」を活用したりすることも日常的に行っています。一方で、CとDを合わせてマイナス評価をしている児童がいることは看過できません。全ての児童が「わかりやすい」と



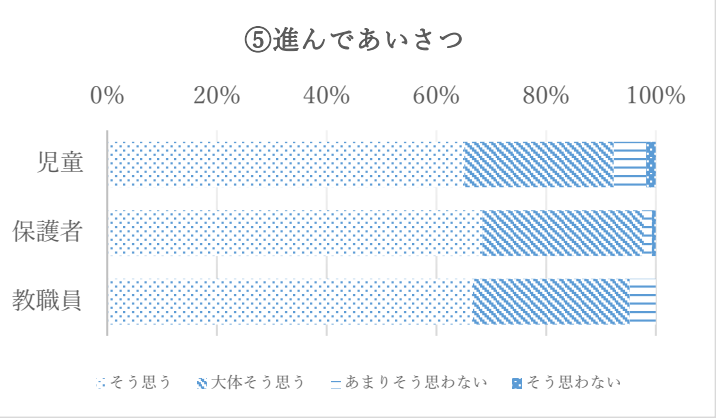
感じるができることは、児童の「確かな学力」を保障するために必要不可欠であると捉え、児童がより「わかりやすさ」を実感できるような授業の実践を模索していくことが教職員の課題であると考えます。今年度から、教科担任制や専科授業を積極的に取り入れています。それにより、多角的な視点で一人一人の児童を見取ることができています。引き続き、就学時から低学年時の少人数による授業、スクールサポーターによるより専門性の高い授業など、児童のニーズや実態に合わせた指導形態の在り方を考えていきたいです。

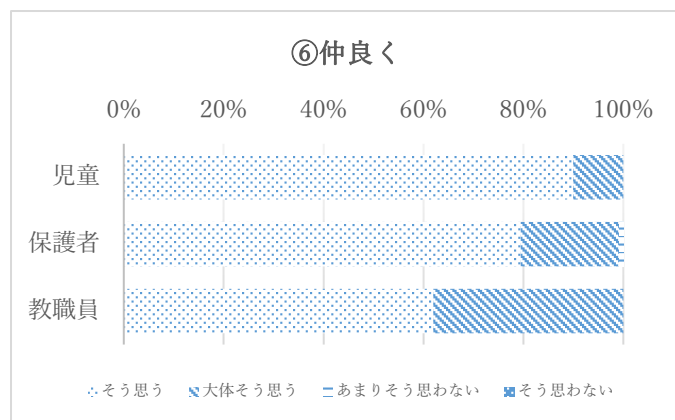
項目④の「読み聞かせや読書」については、児童のAとBを合わせて75%がプラス評価をしています。前年度と比べて数値が下がっており、児童の読書への興味関心が低くなっている傾向が見られます。本校では学校図書館司書を配置し、学習に必要な図書を整備し、児童が学習に生かすことができるよう環境づくりを大切にしています。「読書ノート」の活用や「100冊読書」の取り組みなど、児童が継続的に意欲的に読書を楽しむことができるようにしています。また、月曜日の朝の帯時間に読書タイムを設定し、週明けの児童が落ち着いた気持ちで1週間のスタートを切ることができるように取り組んでいます。年に2回の「あじさい読書週間」「どんぐり読書週間」も、児童の読書好きを高める取り組みと考えます。CとDを合わせて25%のマイナス評価も気になるところです。1人1台のGIGA端末が使えるようになり、子どもたちが手に取って本を読むという習慣が希薄になってきたと考えられます。より一層、「読書」と「学力（正答率）」に相関関係があることを意識して、児童に読書の有用性を指導していくことが教職員の課題であると考えます。低学年の読み聞かせから高学年の親子読書など、家庭の読書環境の整備も啓発していきたいと考えます。



2. 豊かな心

項目⑤の「進んであいさつ」についてですが、90%の児童がプラス評価をしています。しかし、普段の児童の様子を見ていると、進んで気持ちの良い挨拶ができていない児童もいます。また、時や場に合ったふさわしい挨拶ができていないと感じる場面をよく目にします。今年度は児童会が中心となって「町別対抗あいさつ週間」を設定したり、月目標に挨拶を取り入れたりするなど、自発的な活動も進めています。「めざすあいさつの姿」を具体的に示すことや、「挨拶をすることの意図」を児童に説いていくことが教職員の課題であると考えます。人と人の心をつなぐ第一歩は「気持ちのこもった挨拶」だと考えます。今後も引き続き自ら進んで挨拶をし、「つながり」を深めていくことができる取り組みを続けていきたいと思ひます。



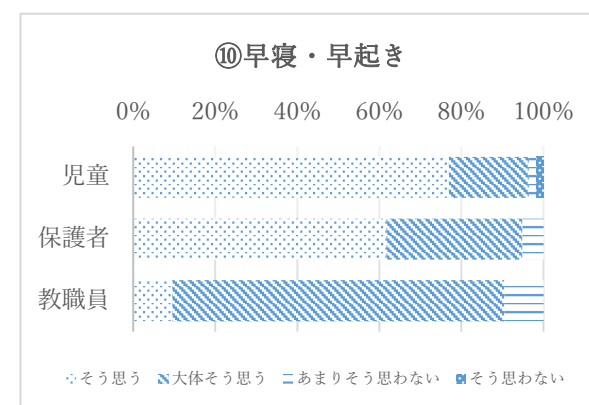
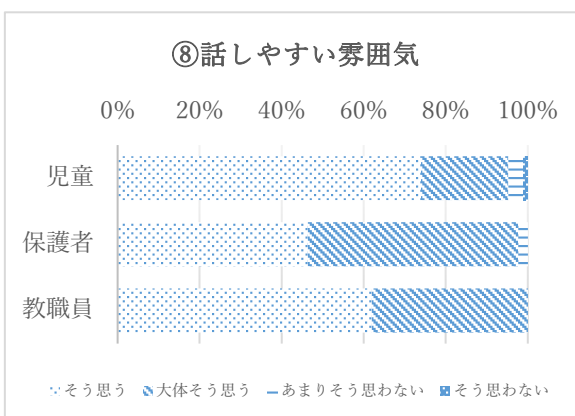


も大切にできるよう、引き続き取り組んでいきます。また、友達の良いところを終わりの会で伝え合ったり、見つけた良さを「キラキラカード」に書いたり、互いの良さに気づき、認め合い、友達を大切に作る取り組みを積み重ねています。キラキラカードは年に4回、学級ごとにまとめて本館1階の「きらきらロード」に掲示し、交流しています。これからも様々な角度から人権意識を高める活動を取り入れていきたいと考えています。

項目⑧の「話しやすい雰囲気」については、児童で95%、保護者では98%がプラス評価をしています。しかし、5%の児童が「困ったことを担任に相談する」ことについてマイナス評価をしています。困りを感じた児童が安心して担任をはじめとした教職員に相談できる環境を整えることが課題だと考えています。そのためには、日常から児童が安心して学校生活を送り、周りの大人を信用して頼ることができる雰囲気のある学校づくりが肝要です。本校の取り組みとして、年2回の「いじめアンケート」「学校生活についてのアンケート」などをもとに「先生と話そう月間」として児童1人1人と面談する時間を大切にしています。教職員はこれからも「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を心がけていきます。

3. 健やかな体

項目⑩の「望ましい生活習慣」については、96%のプラス評価がありました。しかし、4%の児童がマイナス評価をしていることもわかりました。本校では、長期休業明けに「自分の生活を見直そう週間」を設定し、規則正しい生活習慣の大切さを伝えています。また、養護教諭と栄養教諭が中心となり、担任や保護者と連携しながら「健康教室」を実施しています。肥満傾向のある児童に対しては、栄養指導や生活習慣の指導を行い、健康な生活を送ることができるよう取り組んでいます。引き続き、規則正しい生活習慣を維持することの大切さを児童に指導し、保護者に伝えていきます。



保護者に伝えていきます。

項目⑥の「友達を大切にする」では、児童のA、Bを合わせて100%が、保護者も約100%がプラス評価をしています。本校では毎月第3木曜日を「つながりの日」と設定しています。毎月人権に関わるテーマを決め、学年に応じた内容の学習を行っています。学習のまとめを「振り返りカード」にまとめたものは、中校舎1階の「つながりコーナー」に掲示し、交流しています。また、同じ日の中間休みは「つながりタイム」として縦割りで楽しく遊ぶ活動をしています。横のつながりも縦のつながりもどちら

項目⑪の「安全に気をつける」でも、高いプラス評価を得ています。本校では、毎月「安全ノート」を活用し、校外・校内で安全に過ごすための学習を行っています。交通安全教室や自転車教室なども地域・保護者の協力を得ながら実施しています。また、長期休業前には休み中の校外での安全な過ごし方、町別児童会では安全な登下校の仕方を指導しています。様々な場面を想定した避難訓練を行い、自分の命を自分で守るために必要な正しい行動について考える時間を持っています。さらに教職員は、児童の命を守り切ることができるよう万一来に備え、共通理解を図り、事故を未然に防ぐこと、事故等の緊急時に迅速・適切な対応を連携して行うことを目指して「実地訓練」に取り組んでいます（「HANAモデル」）。今後も様々な場面・場所で危険を予測し、適切に行動できる力を保護者・地域と連携しながら育てていかなければならないと考えます。

4. その他（学校運営協議会でいただいたご意見を載せています）

- ・見守り隊をしていて、子ども達が元気な挨拶を返してくれると朝から気持ちがよくなる。「おはよう」と毎朝子ども達に声をかけることで、声が出るようになってきた。これからも声をかけ続けていきたい。学校側も引き続き挨拶の大切さを指導してほしい。
- ・見守り隊の紹介を6月の朝会で行うことができたことはとてもよかった。3月の朝会か「6年生を送る会」などの機会に1年間の感謝の気持ちを伝える会をもちたい。
- ・授業を参観していて、GIGA 端末の導入により、GIGA に集中し過ぎてしまったり、操作が早くできると時間をもてあましてしまったり、授業で活用する場合にメリットとデメリットがあるように感じた。
- ・高学年での教科担任制、ペアやグループでの学習形態、あじさい読書月間など様々な取組をしていることがよくわかり嬉しい。引き続き、工夫した授業、様々な取組を行ってほしい。また、教科担任ならではの専門性が高めていければいいと思う。
- ・きらきら見つけの取組がとてもいいなと感じた。子ども達の自己肯定感が高まる取組なので、引き続き行ってほしい。
- ・運動会に向けて、2年生の子ども達が独居老人への招待状を作ってくれた。たくさんの観覧があることを期待したい。
- ・PTA では、たくさんの保護者の方が学校行事にボランティアとして参加してくださった。今年度は「秋祭り」を開催するのでたくさんの子ども達に参加してほしいと考えている。
- ・今年度から「すぐる」配信で、様々な取組について知ることができて嬉しい。便利なので今後も活用してほしい。
- ・神社の相撲大会で各児童が一生懸命頑張る姿がとてもよかった。また、OB（卒業生）が練習に来て教えてくれていた姿が印象的で、つながりを感じて嬉しかった。
- ・学校は、アンケートの数字に一喜一憂することなく、子どもの学びのために、取り組んでいたきたい。

学校が目指す児童の成長には、家庭や地域との連携が欠かせません。学校での取り組みを種々たよりやホームページなどを通じて発信するとともに、児童・保護者・地域からの様々な声に耳を傾けているかどうかについて、教職員は今後も自ら問い直す機会を持ちながら、教育活動・学校運営を進めていきます。